

“ Dr. ジャン・ティーのヒューマンファクター研究室”
No.3 〈気づき・違和感〉

タイトル: 「ん!？」 その気づき、トラブル未然防止に活かせる?

【事例】

作業員が現場を通りかかったところ、何かがいつもと違う気がしました(音や臭い)。報告しなくてもいいような些細なことだと思いましたが、とりあえず上司へ連絡しました。念のため、当該モーターを点検したところ、そのままにしておく大きな機器損傷につながる、わずかな故障を発見しました。

【解説】

作業中や移動中などに遭遇する「何かいつもと違う」「どこが悪いかわからないけれど、何か変な気がする」などのちょっとした『気づき』は、トラブルの前兆の可能性があります。

日々感じる『気づき』を積極的に活かすことは、トラブルの未然防止や、事故の拡大防止につながります。

しかし、あまりに些細な『気づき』は、得てして気のせいや思い過ごしとして見落されやすく、「大した問題ではないだろう」と思いがちです。「違和感」「疑問」などの『気づき』は、トラブルの前兆をつかむきっかけとなります。この「気づき」をそのままにせず、「疑問は報告する」「立ち止り相談する」「周りの人に確認する」などの情報を共有する行動が大切です。

【トラブル未然防止のために】

「何か変だな?」と感じたら、その気づきを共有しましょう。

例えば、わずかなにじみやいつもと違う臭い、いつもと違う音などの違和感

さらに、普段から機器や設備の状態をしっかりと把握しておくことで、気づきのアンテナ感度を高めることもできます。